HTML

1. HTMLとは  
   (perplexityから)

HTML（HyperText Markup Language）は、ハイパーテキストを記述するためのマークアップ言語の1つであり、主にWorld Wide Webにおいてウェブページを表現するために使用されます[1]。HTMLは文章の構成や役割を示す言語であり、見出しや段落、表、リンクなどの要素がどのような役割を持つかを指示します[2]。現在、ほとんどのWebサイトで使用されており、Webページの構造を把握しやすくする役割を果たしています[3]。また、HTMLはWEBページ内の基本的な情報や構造を構成し、テキストの装飾や画像の挿入、リンクの設置などを可能にします[4]。

Citations:

[1] https://ja.wikipedia.org/wiki/HyperText\_Markup\_Language

[2] https://udemy.benesse.co.jp/design/web-design/what-is-html.html

[3]https://www.internetacademy.jp/it/design/web-design/HTML\_beginner\_explanation.html

[4] <https://www.toyo-grp.co.jp/column/column-6371/>

<!DOCTYPE html>

<html>

<head>

<title>タイトル</title>

</head>

<body>

<h1>見出し1</h1>

<p>これは段落です。</p>

<a href="https://www.example.com">リンクテキスト</a>

<img src="画像のURL" alt="代替テキスト">

</body>

</html>

1. マークアップ言語とは

マークアップ言語は、文章の構造や意味を示すための言語であり、プログラミング言語とは異なります。主にHTML（HyperText Markup Language）が代表的なマークアップ言語であり、ウェブページの表現に使用されます[1]。マークアップ言語は文章の構造化に使われ、例えばタイトル部分や本文の始まり、重要な部分などを示す役割を果たします[4]。具体的には、HTMLはWEBページ内の基本的な情報や構造を構成し、テキストの装飾や画像の挿入、リンクの設置などを可能にします[2]。また、マークアップ言語はWebサイト制作だけでなく、ネイティブアプリの制作などでも使用されることがあります[3]。

3. 要素、タグ、属性

　赤枠に囲まれた部分を要素と呼びます。要素の中に要素を記述した場合、囲んでいる要素を親要素、囲まれた要素を子要素と呼びます。  
　以下のサンプルではhtml要素の子要素として、head要素とbody要素、head要素の子要素としてtitle要素、bodyの子要素としてh1要素、p要素、a要素、img要素がいます。つまりHTMLはhtml要素が一番の祖先(ルート要素)として、子、孫、ひ孫・・・のように入れ子構造として記述します。html要素を根っこ(ルート)とするとそこから、枝葉が伸びるように記述していきます。このような構造のことを木構造と呼びます。プログラミングの世界ではよく見かける構造です。

テキスト

低い精度で自動的に生成された説明

a要素は以下のように記述します。  


1. 開始タグ: <a href=”https://www.exmaple.com>を開始タグ
2. 終了タグ: </a>
3. 要素内容: リンクテキスト
4. 属性: 開始タグの中のhref=”https://www.example.com

要素は開始タグ内のみ記述可能です。